

ほっかいっぱいみさきっ子

御前崎市立御前崎小学校 学校だより 令和3年度 7月号



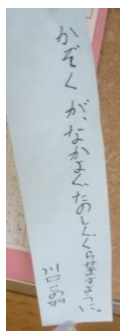
大好き6年生

数値でもわかる みさきっ子の優しさ

学校では、定期的な「いじめアンケート」や教育活動を振り返る教育評価など、言動に表れない子どもたちの気持ちを教えてもらう機会を設けています。さらに、児童を多面的に理解し、支援に生かすことができるよう、i-check という検査を4・5年生に実施しています。その分析結果が学校に届きました。その中で本校児童が、全国平均に比べて、極めて高い数値を示している項目がいくつかあるのです。学校訪問で、多くのお客様からほめていただいた子どもたちの姿や、私が日常的に感じていた、子どもたちの優しさが、数値としてもはっきりと表れていました。同検査の個人結果票を、個人面談で配付しますので、お子さん理解の一助にしてください。

全国平均に比べ特に高い数値を示していた項目（これはごく一部です）

全国比+



4年	学級の友だちからやさしい言葉をかけてもらえる（よくある）	17
	先生は気持ちをわかってくれる（よくわかってくれる）	22
	自分はクラスのみんから注目されることがある	14
5年	家族に困ったことを相談できる	20
	先生はクラスみんなをほめてくれる	13
	自分はクラスのみんから注目されることがある	14
	心から感動した体験がある	21

家族（地域）の方からの愛され感覚をもち、温かい集団の中で育まれている御小の子どもたち。5年生の感動体験の多さは、伝統のカメ飼育のおかげかな、とも思います。

「クラスのみんがコロナに負けず、休まずに来られますように」「家族みんながずっと元気でいられますように」など、七夕短冊に込められた優しい願いにも胸が熱くなりました。



感銘を受けたお父さんの姿 環境の大きさ

先日、「わが子がお友だちの定規をランダデッキの隙間に落としてしまった、申し訳ないから」と、定規を取りにきてくださったお父さんの話です。職員誰一人、全く歯が立たなかったさび付いたデッキのネジを、持参した道具とサーフィンで鍛えた腕力で見事にゆるめ、板を剥がして定規を取り出してくれたのです。まさかこのデッキの板が外れるとは、私たちは思ってもみませんでした。図々しくも、「今後、このデッキでピンチの時にはSOS出してもいいですか？」とお聞きしたところ「自分でよければ、呼んでください」との温かいお返事でした。

このお父さんの言動と、紳士的な振る舞いに、私は大きな感銘を受けました。大切なお子さんをお預かりしている私たち教員も、ご家族と同じくらい子どもたちにとっては重要な環境要素です。職員一同で、その責任の大きさを改めて確認し合いました。

（子どもたちを励ますつもりで登った山頂登山なのに、励ましてもらっただけだったけど、でもうれしかった校長 仁平美和子）

